

審議会等議事概要

平成26年度 滝川市保健医療福祉推進市民会議第3回計画策定専門部会 議事概要

日 時	平成26年10月1日（水曜日）午後6時30分～午後8時30分
開催場所	滝川市役所 3階 301会議室
出席者	男澤委員、椿坂委員、奥平委員（代理）、宮腰委員、岸部委員、泉田委員、 神部委員、須田委員、安居委員 事務局：松澤介護福祉課長、長瀬健康づくり課長、渡辺主幹、柳主幹、相澤副所長 谷本課長補佐、菅野係長、鈴木係長、加地係長、須藤主査、伊藤主事
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 部会長挨拶 男澤部会長より開会にあたって挨拶があった。</p> <p>3 議 題（進行：部会長）</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①アンケート調査結果について</p> <p>事務局) 資料に基づき、アンケート調査の概要、一般高齢者アンケート、居宅サービス利用者アンケート、施設サービス利用者アンケート、サービス事業者アンケート、日常生活圏域ニーズ調査の結果概要について説明。</p> <p>委員) 利用状況がフル稼働の介護サービスについては、満床にならないと経営が成り立たないという場合も想定される。処遇改善制度があるにしても、基準単価が下げられ、事業者としては空室にすることはできない状況もあると考えられる。</p> <p>委員) 滝川市のサービス事業所数が足りているかどうかはどのように判断すべきか。</p> <p>事務局) 高齢者数、認定者数などを基に、国の係数を使って推計作業を進めるが、その中で検討していく。</p> <p>委員) 事業者のニーズのほか、一般高齢者が介護を受けることになった時35%が在宅を希望といったアンケートの結果、滝川の施設整備の特徴も踏まえ、施設や在宅サービスのあり方を検討する必要がある。</p> <p>委員) アンケートの中で、ボランティアを活用した取組に対する意見があったが、その活動に対しポイントが与えられるような仕組みの導入も必要と考えられる。</p> <p>事務局) 国も重要な取組と位置づけており、市としても取り組んでいかなければならないこととして検討が必要と考えている。</p> <p>委員) ボランティアの仕組みには限界があるような気がする。施設を作る必要があるが従業員が足りないという状況にあり、これは滝川だけの問題ではないが、先々にどう埋めていくか考えていかないと絵に描いた餅になる。</p> <p>委員) 認知症カフェが砂川や深川で取り組まれているようである。この場でどの</p>

ようなことが話されているのか知っておいた方がいい。

(2) 検討事項

①第6期計画の方向性の検討

事務局) 資料に基づき、介護保険制度の改正概要、第6期計画の方向性について説明

委員) 介護保険制度の改正内容を見ると、要支援者への対応が厳しくなるように感じるが、今の体制でこれらの対応をやり切れると思えないがどうなのか。

事務局) 厳しい状況であるが、定められたことなのでやらなければならない。

委員) 第6期でグループホームや小規模多機能型居宅介護整備の考えは。

事務局) グループホームはほぼ満床状態であり、また、今後認知症の方が増えると予測されており、検討していかなければならないと考える。

委員) 老人保健施設は在宅復帰のための施設だが、本来の目的に沿った形で運用されていないと感じており、変えていく必要があるが、どう考えるか。

事務局) 在宅に戻っている方もおり、目的に合わせて運用されるべきと考える。

委員) 第6期計画の内容は、第5期計画を基本に、第6期の改正部分が加わるイメージか？

事務局) 第5期計画の取組の課題を踏まえ、第6期計画でできるかぎり継承していくことを基本に、介護保険制度の改正部分も加え行っていくという形になる。

委員) 介護予防・生活支援サービス事業については、多様なサービスが充実されることになると、専門事業所への影響も考えられる。

委員) 国の方針を踏まえて、いかにうまく進め、滝川らしさを盛り込んで、滝川を終の棲家に選んでもらえるようなことを考えていくとことが重要である。

委員) 国の方針では、ボランティアに対する期待が大きくなっているが、資源としてどのくらいいるのか。ボランティアについては、季節により協力者の人数も変わると思われる。

委員) 自分が住む町内会を見てみると高齢化率は高く、ボランティアとなる人材がいるかどうかわからない。地域で生活援助も行っているが、買い物の支援も車による事故の心配もあり、難しい状況。緊急の場合だけでも何とか手助けしてほしいという方が多いのは実態としてある。

委員) ボランティアセンターには170人余り登録されているが、登録するだけで活動されていない方もいるため、意識調査を実施している。誰がどのようなボランティアを求めているか、生活支援まで可能なのか明確にする必要がある。

委員) ボランティアニーズに対し、どこを主にボランティアを割振りしていくのかということも考える必要がある。

委員) ボランティアについては、地域の協力というものもある。どういうことまでできるのか、できない部分をどう育てるのか、利用内容によって組み替えるのか、など考える必要があり、行政が仕組みを作ったとしても、機能させるためには、町内会を含め側面的に推進するやり方が必要である。

委員) 地域ケア個別会議の中で、ボランティアの頼み方、割振りの仕方でも検討し

	<p>てはどうか。</p> <p>委員) ボランティアに若い世代が入ってこない課題もある。後継者をいかに作るかも視点として必要。</p> <p>4 その他</p> <p>第4回策定部会の開催については、介護認定審査会が開催される火曜日以外の日程で、事務局で部会長・副部会長のスケジュールを確認し、後日連絡することにした。11月上旬頃を予定している。</p> <p>公開する議事録の確認者として、前回に引き続き安居委員を指名した。</p> <p>5 閉会</p>
<p>会議資料</p>	<p>資料 滝川市保健医療福祉推進市民会議第3回計画策定専門部会議案</p>